

効果的な祈り

[エリヤはカルメル山の頂上に登り、地にひざまずいて自分の顔をひざの間にうずめた。それから、彼は若い者に言った。「さあ、上って行って、海のほうを見てくれ。」若い者は上って、見て来て、「何もありません」と言った。すると、エリヤが言った。「七たびくり返しなさい。」七度目に彼は、「あれ。人の手のひらほどの小さな雲が海から上っています」と言った。それでエリヤは言った。「上って行って、アハブに言いなさい。『大雨に閉じ込められないうちに、車を整えて下って行きなさい。』」しばらくすると、空は濃い雲と風で暗くなり、やがて激しい大雨となった。アハブは車に乗ってイズレエルへ行った。](列王記第一 18:42-45)

基本的に、祈りとは神と人々とのコミュニケーションまたは会話のことである。けれども祈りには多くの複雑な面がある。会話と同じようにいろいろなかたちをとり、いくつかの異なった要素を持っている。聖書の中では神との会話は次のようなことばで表されている。神を「呼び求め」る(詩17:6)、「主の御名によって祈る」(創4:26)、「声をあげて、主に呼ばれる」(詩3:4)、「たましいが主を「仰」ぐ(詩25:1)、「主を求め」る(イザ55:6)、「大胆に恵みの御座に近づ」く(ヘブ4:16)、「神に近づ」く(ヘブ10:22)などである。

祈る理由

聖書は人々、特に神に従っていると言う人々はなぜ祈らなければならないか、その理由をはつきり教えている。

(1) 神が祈るように命じておられる。神はこの命令を詩篇の作者(Ⅰ歴16:11、詩105:4)、預言者(イザ55:6、アモ5:4、6)、使徒や初代教会の指導者たち(エペ6:17-18、コロ4:2、Ⅱテサ5:17)、主イエスご自身(マタ26:41、ルカ18:1、ヨハ16:24)を通して与えられた。神は人々との交わりを求め、ともに過すときを持ちたいと願っておられる。祈りは神との深い関係を育てていく方法である。

(2) 祈りは、人生に対する神のご計画を知り理解するため、神の祝福を受け神の約束の成就を受けるために必要な結びつきである。さらに祈りは神の目的に人々を結び付ける。聖書にはこの原理を描写していることばが多くある。たとえば主イエスは、従う人々が切に求める心で願い続けるなら聖霊を受けると約束された。それは応えられるまで天の父の門を叩き続けるようなものだと言われた(ルカ11:5-13)。そこで主イエスの昇天後、弟子たちは教えられた通りに(⇒使1:4)一つになって祈り続けた(使1:14)。そして聖霊が五旬節の日に「注がれる」(主イエスに仕える力を与えるために中に入って来られる)まで祈った(使2:1-4、8)。何人かのリーダーがユダヤの当局者によって逮捕されて釈放された後、弟子たちは集まってきた。そして主イエスを大胆に伝え人々に影響を与えることができるように、聖霊を求めて長時間熱心に祈った。「彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語りだした」(使4:31)。使徒パウロ(新約聖書の多くの教会を開拓し、新約聖書の多くの手紙を書いた宣教師)は人々に祈ってくれるようにしばしば求めた。キリスト者の祈りによる支援がなければ、自分の動きは成功しないことを知っていたのである。そして一緒に神に頼った(ロマ15:30-32、Ⅱコリ1:11、エペ6:18-20、ピリ1:19、コロ4:3-4、→「とりなし」の項 p.1454)。主イエスの異父兄弟でエルサレムの最初の教会の指導者だったヤコブはその手紙の中で、「信仰による祈り」の応答として肉体の癒しを受けることができることばをきり言っている(ヤコ5:14-15)。

(3) 人類を霊的に救うご計画を立てられた神は、人々を神との個人的関係に導き入れるためにキリスト者を神の協働者にされた。信仰者たちが忠実に忍耐強く祈りの活動をするように、神はある意味でご自分を制限された。そしてその人々の祈りによって霊的活動が始まるようにされたのである。信仰者の祈りがなけ

れば神の国には実現しないことが多くある(→出33:11注)。たとえば待っている多くの人に罪の赦しと新しいのちを与えるメッセージを伝える働き人を神は霊的な「収穫」の場に送り出したいと願っておられる。けれどもキリストは「だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい」(マタ9:38)と言って、このことは人々の祈りによってのみ完全に成就することを教えられた。つまり神の目的が成就するように人々が心を込めて祈るときにのみ、神は力を発揮してそれを行われるのである。もし祈らなければ、個人や教会全体に対する神のご計画は実際に遅れたり妨げられたりすることになる。

効果的な祈りの条件

祈りにはある特別なかたちやことばがあるわけではない。けれども効果的な祈りをするためにはいくつかの条件を満たさなければならない。

(1) 神は祈りを聞いてくださるし、必要なことを実現する能力を持っておられ、その状況の中で最も良いことをしてくださると心から信じる信仰を持たなければならない。主イエスははっきりと「祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります」と言われた(マコ11:24)。悪霊に取付かれた少年の父親に対して「信じる者には、どんなことでもできるのです」と言われた(マコ9:23)。ヘブル人への手紙の著者は「全き信仰をもって、真心から神に近づこう」と勧めている(ヘブ10:22)。ヤコブもまた「少しも疑わずに、信じて願いなさい」(ヤコ1:6, ⇒5:15)と励ましている。

(2) 祈りは主イエスの御名によってしなければならない。これは神に聞いてもらうために祈りの最後に「主イエスのお名前によって」と付け加えるということではない。聖書の中ではだれかの名前によって何かを行うということはその人の承認を受け、その人の権威をもって行うことを意味している。またその人がどうい人であるか、そしてその名前が何を表すかを意識することでもある。したがってキリスト者は祈るときに、主イエスが人々の必要や求めに応えたいという思い、同情心、そして力を持っておられることを意識して祈らなければならないのである。このことを覚えて祈るなら、信仰が強められ、主はあらゆることを支配しておられるという平安が与えられる。主イエスご自身が「またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしはそれをしましょう」と言ってくださった(ヨハ14:13-14)。これは主のご性格と気持ちに調和して(主がどういう方で人々を通して何を行おうとしておられるかを意識する)祈りをするなら、その祈りは非常に効果があるということである(→ヨハ14:13注)。

(3) 祈りは神の完全なみこころ(願い、意図、計画、目的)に沿って願うときに最も効果的である。「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です」(1ヨハ5:14, →「神のみこころ」の項 p.1207)。主イエスはこの原則を「みこころが天で行われるように地でも行われますように」という模範的祈り(しばしば「主の祈り」と呼ばれている)の中で教えられた(マタ6:10, ⇒ルカ11:2, →死の直前のゲッセマネでのご自身の祈り マタ26:42)。多くの場合神のみこころは聖書に啓示されているので容易に知ることができる。そして神のことばにある約束と動機に基づいた祈りは最も効果的であると確信できる。エリヤは主の預言のことばが既に示されていたので、神が祈りに応えて火を下し、雨を降らせてくださることを確信していた(1列18:1)。そして異教の神々はイスラエルの神と同じではなく力も持っていないと確信をしていた(1列18:21-24)。神のみこころは時にはそれを知ろうと真剣に求めるときに明瞭になる。そして祈ること、聖書を読むこと、神が既に行っておられるように見えることに目をとめることなどを通してわかるようになる。そこである問題や状況について神のみこころがわかったと感じたら、神が応えてくださるという確信と信仰をもって祈ることができるようになる(→1ヨハ5:14注)。

(4) 神のみこころに沿って祈らなければならないだけでなく、もし応えていただきたいなら、神のみこころの中で生活しなければならない。願いが神の願いと調和していて動機が正しく純粋であるなら、神は求めるものを与えてくださる。主イエスは「神の国とその義とをまず第一に求めなさい」(→マタ6:33注)。そうすれば面倒を見、必要なものを与えてくださると言われた。使徒ヨハネ(主イエスが地上におられたと

きの最も近い弟子の一人)は、「また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです」と書いている(→Ⅰヨハ3:22注)。神の命令を守り、その教えに従い、神を愛し神に喜ばれることを行うことなどは、祈りの応えをいただくために必要な条件である。ヤコブは「義人の祈りは働くと、大きな力がある」と書いているけれども、その「義人」には2種類あることを示している。第一はキリストを信じる信仰によって神と正しい関係に入れられたという意味の義人である。第二は預言者エリヤのように正しく神の基準を守って生きているという意味での義人である(ヤコ5:16-18, →詩34:13-14)。モーセも良い模範の一人である。神に忠実で従順な関係を持っていたので、モーセがイスラエル人のためにした祈りは効果的であると神は言われた(→出33:17注)。けれども詩篇の作者はもし罪を犯し続けているなら、主は祈りをお聞きにならないと言っている(詩66:18, →ヤコ4:3注)。主が時にイスラエル人の祈りに応えられなかったのはこのような態度が理由だった。人々がよこしまな生活をし、ほかの神々を拝んでいるとき神は祈りを聞こうとされなかった(イザ1:15)。けれども神はまた「わたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう」とも言っておられる(Ⅱ歴7:14, →6:36-39, ルカ18:14)。祈りには神との正しい関係が非常に重要だった。それは贖罪の日(贖罪の日)に罪の赦しを求める大祭司の祈りも、まず自分自身の罪をきよめる儀式を行っていないなら聞かれなかったほどである(→出26:33注, →「贖罪の日」の項 p.223)。

(5) 祈りが聞かれるためには執拗でなければならない。応えていただくまで願い続けるのである。ルカ18章1-7節に描かれているやもめの話の要点はこれである(→ルカ18:1注)。「求めなさい・・・捜しなさい・・・たたきなさい」という主イエスの教えは(マタ7:7-8)、忍耐強く根気よく祈るように教えている(→マタ7:7-8注)。けれどもそれは繰返し繰返し神にお願いしなければならないという意味ではない。また神は祈りを聞き応えてくださるという信仰が人々にないということでもない。粘り強く祈るということは現在の状況を思い煩うのではなく、思い出すたびに神はあらゆることを支配しておられ、一番良いことをしてくださることを認めてそれを神に持つていくことである。使徒パウロも「たゆみなく祈りなさい」と勧めている(コロ4:2注, Ⅰテサ5:17注)。歴史を通して神を信じる忠実な人々はこの原則を認めてきた。たとえばあるときイスラエルはアマレク人との戦いに勝利をした。けれどもその勝利はモーセが両手を神に向けて上げて祈り続けたから与えられたものだった(→出17:11注)。エリヤは雨が降るといふ預言のこぼを受けた後、実際に雨が降るまで祈り続けた(Ⅰ列18:41-45)。この大預言者はこれ以前にもやもめの死んだ息子を神が生き返らせてくださるよう長時間、熱心に祈っていた。神が祈りに応えてくださるまで神を呼び続けたのである(Ⅰ列17:17-23)。

効果的な祈りの聖書的要素と方法

(1) 効果的な祈りに必要なものは何か。

(a) 真心から(ことばや歌だけではなく、日々の生活の仕方)で神を賛美し、たたえなければならない。生活全体が神への愛を反映し、神があがめられるものにならなければならない(詩150:4, 使2:47, ロマ15:11, →「賛美」の項 p.891)。

(b) 賛美と密接に関係があつて同じように重要なのは、神に感謝することである。それは神が神であり、今までに多くのものを与えてくださったことに絶えず感謝を表すことである(→詩100:4, マタ11:25-26, ペリ4:6)。

(c) 罪を心から告白すること(罪を認めてそれから離れる気持を持つこと)が信仰による祈りにとって重要である(ヤコ5:15-16, →詩51:1, ルカ18:13, Ⅰヨハ1:9)。

(d) 必要なものを遠慮することなく求めるようにと神は教えておられる。ヤコブはしばしばほしいものを受けられないのは求めないからであり、間違つた動機から求めるからであると示している(ヤコ4:2-3, →詩27:7-12, マタ7:7-11, ペリ4:6)。

(e) ほかに人々のために熱情をもって祈らなければならない(民14:13-19, 詩122:6-9, ルカ22:31-

32, 23:34, →「とりなし」の項 p.1454)。(2) どのように祈ったらよいか。(a) 主イエスは心の誠実さについて多く話された。どんなに靈的に聞こえても、空しいことばに神は応えて下さらない(マタ6:7)。(b) 静かに祈ることもできるし(1サム1:13)、大きな声で祈ることもできる(ネヘ9:4, エゼ11:13)。(c) 自分のことばで祈ることもできるし、聖書のことばや短文、思想をそのまま使って祈ることもできる。(d) 理解しながら祈ることもできるし、御霊によって祈る(異言で1コリ14:14-18)こともできる。これは必要なことをはっきりと自分のことばで表現できないときに、神の御霊が内側から祈り出してくださる方法である。もちろん御霊は神のご計画と完全に調和したかたちで訴えてくださる。それによって主イエスは(主イエス)御霊が必要と求めを完全に神に伝えてくださることを知っていたら、うめくこと(人間のことばを使わない。ロマ8:26)によって祈ることもできる。(f) 祈りのもう一つの方法は主に向かって歌うことである(詩92:1-2, エペ5:19-20, コロ3:16)。(g) 熱心に祈りを継続する場合、時には断食をすることが必要である。「断食する」とは神と神の願いに集中するために食事やそのほかの物質的必要、したいことなどを脇に置くことを意味する(エズ8:21, ネヘ1:4, ダニ9:3-4, ルカ2:37, 使14:23, →マタ6:16注)。

(3) 祈りに最も適切な姿勢はどれか。聖書には人々がいろいろな姿勢で祈っていることが書かれている。立って祈る(1列8:22, ネヘ9:4-5)、座って祈る(1歴17:16, ルカ10:13)、ひざまずいて祈る(エズ9:5, ダニ6:10, 使20:36)、床の上で寝ながら祈る(詩63:6)、地にひざまずいて祈る(出34:8, 詩95:6)、地に伏して祈る(1サム12:16, マタ26:39)、両手を天に上げて祈る(詩28:2, イザ1:15, 1テモ2:8)などである。姿勢に関係なく祈りはいつでもどこでもすることができる。

効果的な祈りの模範

聖書には力強い効果的な祈りの模範例が満ちている。(1) 神はモーセにほかの人々とは違う道を行くようになることを示しておられたけれども、ほかの人々のための数多くのとりなしの祈りには応えてくださった(→「とりなし」の項 p.1454)。(2) 惨めな状態になって悲しむサムソンは、ペリシテ人を打負かすという生涯の使命を成就するためにもう一度機会を求めて祈った。神はそれに応えて超自然的な力を与えられた。そしてペリシテ人が神々を祝っている建物の柱を引倒すことができた(士16:21-30)。(3) 預言者エリヤがささげた力強い四つの祈りの応えが示されている。それはみなイスラエルの神の栄光を現すものだった(→1列17:-18:, →ヤコ5:17-18)。(4) ヒゼキヤ王は病気になる。預言者イザヤによって死を宣告された(11列20:1, イザ38:1)。けれども自分の生涯と働きはまだ完成していないと感じたヒゼキヤは、時間をもっと与えてくださいと心から祈った。そこで神は預言者をヒゼキヤのところに送り返し、病気が癒され、いのちが15年延ばされると告げられた(11列20:2-6, イザ38:2-6)。(5) ダニエルはライオンの穴の中で、安全に守り解放してくださるように祈ったに違いない。神はその願いを聞き入れてくださった(ダニ6:10, 16-22)。(6) 新約聖書の教会のキリスト者たちはペテロが牢獄から救い出されるように熱心に祈った。神は御使いを送ってペテロを解放してくださった(使12:3-11, →12:5注)。

以上の模範を見ることによって神を信じる人々の信仰は励まされ、どのようにしたら聖書に描かれている原則に従って効果的に祈ることができるか理解できるようになるに違いない。